平成２９年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ことばキャンプ実施報告書

～東北の親子支援、児童養護施設の自立支援～

特定非営利活動法人　ＪＡＭネットワーク

もくじ

Ｐ．２	支援事業について
Ｐ．３	自分のことばで伝える自由を取り戻してあげたい！ ビーンズふくしま　みんなの家　事業長　富田　愛 森　淳美
Ｐ．４	chapter 1　親子支援概要・スケジュール
Ｐ．５	ビーンズふくしま
Ｐ．６	ビーンズふくしま
Ｐ．７	ラストステップについて
Ｐ．８	お母さんたちの感想
Ｐ．９	東北未来カフェに参加して
Ｐ．10	chapter 2　児童養護施設支援概要・スケジュール
Ｐ．11	いわき育英舎　職員研修
Ｐ．12～14	いわき育英舎　社会体験ことばキャンプ
Ｐ．15	ことばキャンプ研究会
Ｐ．16	chapter 3　ことばキャンプ研究会
Ｐ．17	ことばキャンプ研究会　第１部 いわき育英舎　施設長　市川誠子
Ｐ．18～19	ことばキャンプ研究会　第２部 児童養護施設で育った若者の体験談
Ｐ．20	ことばキャンプ研究会　第２部 グループディスカッション
Ｐ．21	ＪＡＭネットワークとは
Ｐ．22	７つのチカラ

高齢者・障害者が自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう必要な支援等を行います。

独立行政法人福祉医療機構（ＷＡＭ）は、社会福祉振興助成事業を通じて、多様な社会資源がそれぞれの地域で有機的に連携・協働し、それぞれの得意とする活動を行いながら人と地域の絆をつくり直し、支え合いと活気のある地域社会の再生を目指すシステムづくりに取り組みます。そして、高齢者・障害者が地域の絆の中で自立した生活が送れる社会、また、子どもたちが健やかに安心して成長できる社会の実現を目指していきます。

福祉医療機構ホームページより抜粋

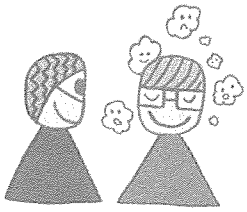
支援事業について

東日本大震災から６年目を迎える２０１７年、被災地の状況は変わってきています。発災以来、さまざまな被災者支援が多く取り組まれる中、ハード面での支援基盤は整いつつあります。しかし、家族や親しい人を失い、生活を取り巻く環境の大きな変化の中で、物質的な安定が見込めるようになった６年目だからこそ、精神的な支援が必要と考えました。

様々な支援が溢れる中で「支援の格差」も生まれているという現状を神奈川県のボランティア団体をネットワーキングしている「かながわ３１１ネットワーク」から伺いました。

また、児童養護施設は東北地方に約２０施設あり、親元で暮らせない子ども達の生活基盤となっています。私たち団体は2008年より東京、神奈川の児童養護施設を中心に首都圏でのべ83施設（子ども約500人、職員約3000人）、東京都、神奈川県の母子生活支援施設4施設、里子・里親研修等、社会的養護の子ども・職員への支援を行ってきました。施設で生活する児童はその生育歴からコミュニケーション不全傾向があり、学校や施設での生活上のトラブルが報告されています。また、施設で生活する児童は18歳で独立することは児童福祉法で決められています。退所後の自立支援策として入所中にコミュニケーション育成研修が必要とされています。今回の事業を通して、親子支援団体に協力を得ながら東北の親子へのことばキャンププログラムの実施を実現することができました。また、児童養護施設においては、ことばキャンププログラムの実施をし、その後、働く大人に実際にインタビューをするなど退所後に働くこと意識し、日々の生活の中でも自立に向けて考えるきっかけとなる取り組みを実施しました。

平成29年度独立行政法人 福祉医療機構の助成受け、１年間を通し、プロジェクト実施にあたり、助成金の企画と実行のアドバイスをいただいたＷＡＭご担当者様、東北支援団体・親子支援団体、参加してくれた親子の方々、児童養護施設の職員の皆様、参加してくれた子どもたち、多くの方のご協力をいただきました。かかわったすべての方に深く感謝申し上げます。



かけがえのない自分を大切にし、相手の気持ちも尊重するコミュニケーション力を身につけた子どもが、一人でも多く育つことを願いながら、これからもＪＡＭネットワークは地道に活動してまいります。

特定非営利活動法人　ＪＡＭネットワーク
ことばキャンプ編集班

「自分のことばで伝える自由を取り戻してあげたい！」

NPO 法人ビーンズふくしま　みんなの家　事業長　富田　愛
森　淳美

今回、福島で初めて「ことばキャンプ」を開催頂きましてありがとうございました。
ことばのチカラ。３日間の「ことばキャンプ」を受けた子ども達の表情の変化に驚かされました。子ども達の心をがっしりと掴んだプログラムは、学びの場でありながら子ども達は楽しそうで、日を追うごとに目を輝かせて、積極的に取り組む姿勢が印象的でした。
プログラムは、子どもだけでなく母親へのワークもあり、改めて母親と子どもの立場や関係性を再認識できたようで母親にとっても子育てにおいての深い学びとなったようで双方にとって、またみんなの家にとっても「ことばキャンプ」実施は、有意義なものとなりました。

震災後の福島で、幣法人では県外に避難している親子、帰還した親子、避難してきた親子の支援を継続して行ってきました。「まずは、子どもに一番接する機会の多い母親の不安や悩みを共有する場を・・・」との思いで、ままカフェやままトークなどの母親たちが、安心して話せる場から始まり、母子避難して１人残った父親たちの語らいの場としてのぱぱカフェも実施してまいりました。その中で、子ども達はあの震災からどんなことを思っていたのだろう？どんな風に今感じているのだろう？という事は、ママ達からも不安として聞かれましたし、私たちもとても気になっていたことでした。「子ども達が３．１１について、いつか話せる場を作りたい！」との思いがずっとありました。

原発事故の影響で、幼いころから外遊びをしても「そこに行っちゃだめ、それは触っちゃダメ！」と言われて育ってきた福島の子ども達。残念ながら、そこに関しては自分の思いのままに選択する自由は失われていました。そのため、・指示待ちの子が多い　・母親の顔色を気にする子が増えてきたのも事実です。

今回の、「ことばキャンプ」のプログラムを通して、子ども達には自分の思いをことばにする力や思いがあることを実感しました。今からでも遅くない！自分の力で、自分のことばで意思表示する自由を取り戻してあげたい！と、強く思いました。

横浜での発表の場も大きな自信になったようです。「あんなに大勢の方の前で、わが子が堂々と発表する姿に私のみならず、パパが一番感激していた！」とある参加者の方が教えてくれました。また、その後学校の行事でクラスの代表として発表する際に、立候補した子もいたそうです。その発表の姿にも大きな成長を感じたと、とても嬉しそうに教えてくれた方がいました。確実に、ことばキャンプで培ったチカラが発揮されております！！
今回の「ことばキャンプ」のプログラムを福島で実施していただき、福島の子どもたちのチカラを実感することが出来ました。ぜひ、今後とも引き続きのプログラム実施を切にお願い申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

Chapter1

親子支援概要・スケジュール

●東北親子支援の目的●

東日本大震災から 6 年目。復興は進んでいるとはいえ、まだ落ち着いているとはいいがたい。様々な支援があふれる中で「支援の格差」も生まれていると伝えられており、一時避難を終えて東北の地元に戻ったときに子育ての困難さを抱えていると聞く。東北の親子と東北で活動している支援団体に、コミュニケーション育成プログラムを提供する。

●東北親子支援の概要●

NPO 法人かながわ３１１ネットワークの協力を得て、東北で活動している親子支援団体にヒアリングをする。その後、提供団体・者を決め日程を検討した。

東北の各地で活動する団体とコラボできる３団体を決定し、その活動の中でことばキャンプを実施した。その様子を撮影し、DVD の画像を作成した。実施後、受益者親子が上京し、かながわ３１１ネットワークが開催するイベントで事例報告及び、子どもたちによるプレゼンテーションを行った。

●コラボした団体●

花巻ママハウス（岩手県花巻市） https://hanamaki-mamahouse.jimdo.com/

花巻ママハウスは、NPO 法人「母と子の虹の架け橋」が運営するパーソナルサポートセンター（2018 年 4 月から　アンの家 Anne’s ハウス女性と子の家に名称変更）。

実施日：2017 年 10 月 21 日

参加者：親子 1 組

きらりんキッズ（岩手県陸前高田市） http://kirarinkids.jp/index.html

2010 年「おやこの広場 きらりんきっず」を開所（2013 年 NPO 法人化）。東日本大震災後、スタッフ全員が被災する中乳幼児を抱える親子のよりどころが必要と感じ、子育て当事者として地域のためにできることを活動中。子どもことばキャンプ＆親講座を行った。

実施日：2017 年 11 月 30 日。

参加者：８組の親子（16 名）

ビーンズふくしま（福島県福島市） http://www.beans-fukushima.or.jp/

「寄り添って、自立を支援する」NPO 法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもや引きこもりの青年などに安心できる居場所を提供している。

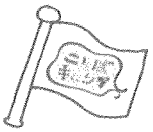
① 12 月 25 日

② 12 月 26 日

③ 2018 年 1 月 5 日

④ 2 月 24 日　ラストステップ(神奈川県横浜市)

ビーンズふくしま



●ビーンズふくしまとは●

NPO 法人ビーンズふくしまは、引きこもりなどの子どもの居場所としてフリースクールから始まった団体で、震災後は仮設住宅に住んでいる子供達や原発事故で避難をしてきている子ども達、親御さんの支援などの活動をしている団体です。社会からの孤立問題に取り組んでおり、子どもや、若者、親世代の方々の「つながりのできる場」としての役割を担っており、今回、JAM ネットワークの取り組みに「今、必要な支援」と感じていただき、今回のプログラム提供をさせていただくことになりました。

●開催日程と内容●

1 回目：2017 年　12 月 25 日 13:00-14:30

2 回目：2017 年　12 月 26 日 13:00-14:30

3 回目：2018 年　 1 月　5 日 13:00-14:30

1 回目

♪ 意思を決めるワーク

♪ 聞く力のワーク

♪ 度胸力のワーク

♪ プレゼン力のワーク

♪ 応答力のワーク

2 回目

♪ 意思を決めるワーク

♪ 聞く力のワーク

♪ 論理力のワーク

♪ プレゼン力のワーク

♪ 応答力のワーク

3 回目

♪ 意思を決めるワーク

♪ 聞く力のワーク

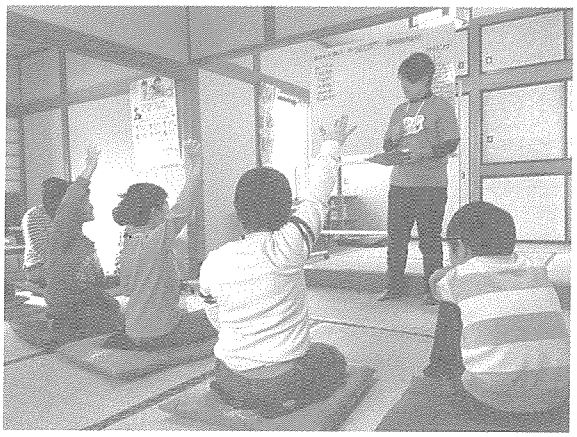
♪ 論理力のワーク

♪ プレゼン力のワーク

♪ 応答力のワーク

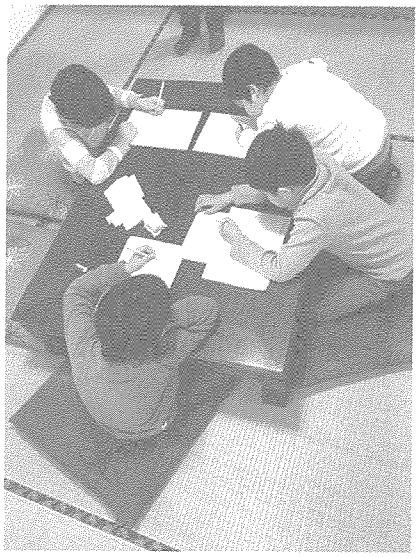
♪ プレゼン大会に向けての準備

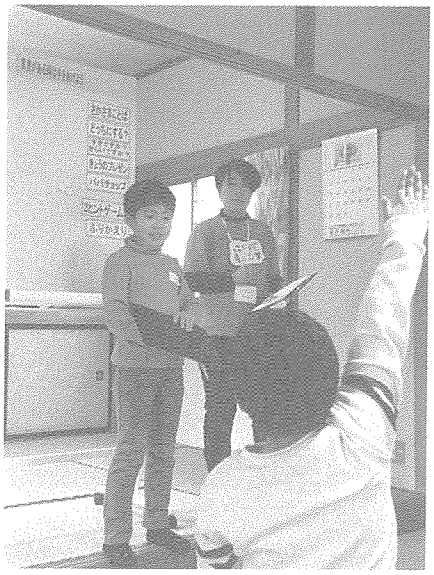
●１回目・２回目ワークの様子●



初めは緊張して手をあげることを躊躇していましたがワークが進むと次第に手が上がるようになり、自分の意見を言いたいという気持ちが出て来て、手が上がるようになりました。わずかな時間の間に子供達の変化が見られ驚きました。

書くワークでは、自分の中にある「ことば」をどんどん書き出せるようになり、集中して取り組んでいました。どの子も楽しそうにワークをしていた姿がとても印象的でした。





プレゼンのワークではお友達やお母さんの前で自分の意見を発表することができました。聞いているお友達は発表者に「ここが良かったよ！」と伝えてあげていました。

ラストステップについて

福島で３回のことばキャンプを受けた子ども達が、今回協働させていていただいた、かながわ３１１ネットワークとのイベントの中で、次なるステップ（ラストステップ）として、イベント来場者の前でプレゼンをする機会を設けました。

● 開催日程と内容●

2017年　2月24日

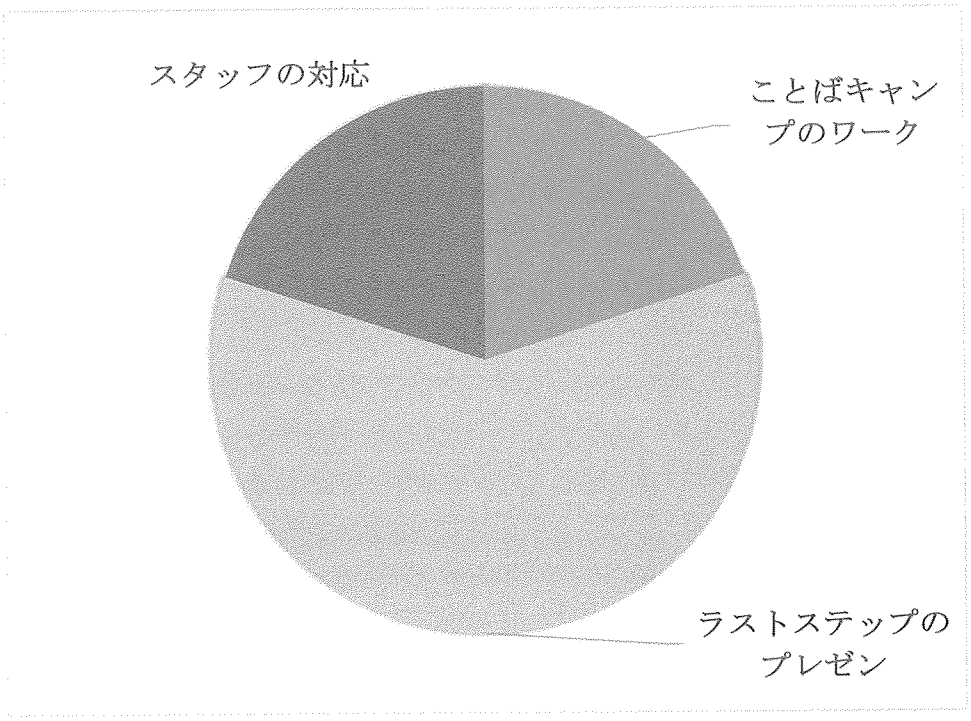
思考を整理する「クモのすウェブ」を使い、テーマに沿って子ども達が「家族」について書き出して行きました。

すでに３回のことばキャンプを受けている子ども達からは、たくさんのことばが引き出され、時々、手が止まってしまう子ども達も、こちらからの声かけで、思い出したように筆が進んでいました。

プレゼンテーションのリハーサルでは、自分からやりたいという気持ちが強く、本番では物怖じすることなく、堂々と自分の思いを会場の大人や見守っている家族に伝えることができ、参加していた大人からたくさんの「花まるメッセージ」（褒めてもらう）をもらい、大きな自信をつけたようでした。

●開催後、参加した親御さんに記入してもらったアンケートのデータ●

「とてもよかった」「よかった」を選んだ方はどのような点がよかったですか？



お母さんたちの感想

●ことばキャンプを受けてみて、子どもの変化・感想について●

・少しずつですが、自分の意見を考えて言えるようになった。学校生活で手をあげられるようになった。「楽しかった！」と話していました。

・発言すること、自分の気持ちを伝えることを自分で考えて出来るようになったことが自信につながってきたと思います。

・親子にて、大変お世話になりありがとうございました。ことばキャンプでは、沢山の人の前で堂々とスピーチできていて良かったと思います。3月初めに授業参観にて「二分の一成人を祝う会」がありました。名前の由来や小さかった頃のエピソード、将来の夢、これから頑張りたい事をスピーチしてくれました。スピーチの途中に感動して胸がつまりながらも、最後まできちんと感謝の気持ちが伝わるスピーチをしてくれ、とても感動しました。お友達のスピーチも、おへそを向けて真剣に聞けていて、ことばキャンプにて学んだ事をすぐに実践できていました。将来の夢も「声を使うお仕事がしたい!!□」と言っており、ことばキャンプにて学んだことが自分の自信に繋がっていったのではないかと思いました！今後も、子どもの成長と共にことばキャンプにて繋がって勉強していきたいです。

●ことばキャンプを受けてみて、親の変化・感想について●

・子どもと向き合い子供の話しや考えを聞き入れる事、親の関わり方で子どもの可能性をどんどん伸ばせるんだなと感じました。どんどん褒めて育てたいと思います。

・子どもへのことばのかけ方や自分の気持ちを考えるきっかけになりました。

・親子にて大変お世話になりました。 親も、皆の前でスピーチする事等ないので、とても緊張しました。 普段忙しくて、なかなか子どもの声にきちんと耳を傾けて聞いてやれませんでしたが、ことばキャンプ後 忙しいながらも、お父さんも子どもの声をきちんと聞いて、きちんと誉めてあげたりする事が増えて 家族の間で笑顔が増えました。 ありがとうございました！

●防災教育フォーラム&東北未来カフェイベント（ことばキャンプラストステップ）への参加についての感想●

・大勢の人の前で緊張をしながらも一生懸命に自分の意見を発表している姿とても誇らしく思いました。大変貴重な経験をさせてもらいありがとうございました。子どもが終わってから「今日１番嬉しかった事は、お父さんとお母さんから花まるコメントを貰えた事だよ」と言われました。親子で成長させて貰える良いきっかけになりました。

・主人も初めての子どもの姿を見て、花まるを伝えることができて新鮮、緊張を感じました。と言っていました。また、ことばキャンプがあったら、参加して、親子共にレベルアップできたらいいなと思いました。ありがとうございました。

東北未来カフェに参加して

●主催者 NPO 法人かながわ３１１ネットワークからの感想●

今回は、東北応援イベントの一環として、ことばキャンプを体験した、福島の子どもたちに発表をしていただきました。

子どもたちが「家族」というテーマで、元気に堂々と発表する姿に、とても感動しました。

また、お父さんお母さんからの花まるメッセージが、とても温かく、たった数回のワークで、このような温かい親子関係を築くことができることばキャンプは、とても素晴らしい活動だと感じました。

ビーンズふくしまさんとは、今後もお付き合いが続きそうとのことで、私たちも嬉しく思っています。

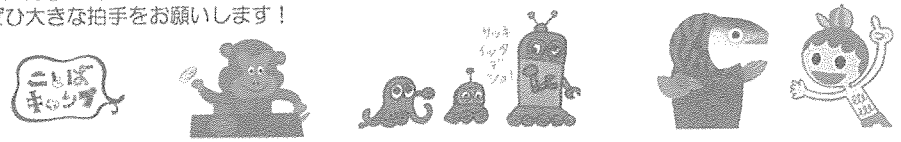
●会場のみなさんからの感想●

・子どもたちが生き生きとしていました。きちんと、発表できていて、素晴らしかった。
・元気な子どもの様子を、実際に眼の前で見るのは、とても楽しいことでした。
・ことばキャンプという内容を初めて知りました。
・震災で心を閉じてしまう子ども達や、保護者に寄り添う活動がよかったです。
・子ども達が自主的に手を挙げ、生き生きと話をしているのが劇的で、被災地での取り組みとして、効果的と感銘を受けました。

東北未来カフェ　15:50～

● パネルディスカッション
大船渡出身、高校１年生で震災を経験した、三上莉奈さん・金野道子さんのお二人をパネラーにお迎えします。東日本大震災当時のお話や、これからの防災についてお聞きします。

● NPO法人JAMネットワークの東北支援活動報告（平成29年度 独立行政法人社 会福祉振興助成事業）
今年度、NPO法人ビーンズふくしま、陸前高田市 子育て支援 おやこの広場 きらりんきっず、パーソナルサポートセンター花巻ママハウスで幼児～小学生、保護者の方々にことばキャンプを実施しました。活動の中で、NPO法人ビーンズふくしまの「みんなの家@ふくしま」でことばキャンプを受講した子供たち４名が自分の考え、思っていることを発表します。子供たちは初めての場所、たくさんの知らない人たちの前でドキドキしながら自分の言葉で伝えます。
ぜひ大きな拍手をお願いします！



♪この後、懇親会に参加し交流を深め今後の東北支援について話す場となりました♪

Chapter 2

児童養護施設支援概要・スケジュール

●児童養護施設支援の目的●

児童養護施設は東北地方に約２０施設あり、親元で暮らせない子ども達の生活基盤となっている。弊団体は 2008 年より東京、神奈川の児童養護施設を中心に首都圏でのべ 93 施設（子ども約 500 人、職員約 3000 人）で子ども・職員への支援を行ってきた。施設で生活する児童はその生育歴からコミュニケーション不全傾向があり、学校や施設での生活上のトラブルが報告されている。一方、施設で生活する児童は 18 歳で独立することが児童福祉法で決められている。ことばキャンプでは、退所後の自立支援策として入所中にコミュニケーション育成研修を実施しており、今回東北の児童養護施設での実施となった。

●支援の概要●

①東北の児童養護施設にプログラム提供の打診をする。その後、提供施設を決め、日程等を検討する

②東北にある児童養護施設いわき育英舎を訪問して、職員を対象にコミュニケーションスキル育成プログラム（2 回）を実施した。施設内のインケアにおけるコミュニケーション育成意識が、職員間に定着することをめざす。

③児童養護施設に入所している子どもたちを対象にしたことばキャンプ（2 回）を実施した。退所後を視野において、外部の働く大人のメッセージを伝えるコミュニケーション育成プログラムを提供する。

●スケジュール●

①職員研修。

第 1 回　10 月 25 日

参加者数 14 人

第 2 回　11 月　1 日

参加者数 14 人

②子ども向け自立支援プログラム

第 1 回　10 月 25 日

参加者数 14 人

第 2 回　11 月　1 日

参加者数 14 人

いわき育英舎　職員研修

●開催日程●

1回目：2017年10月25日16:00-17:30

2回目：2017年11月　1日16:00-17:30

●職員研修プログラムの目的●

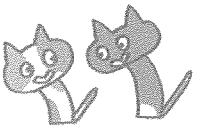
児童養護施設にコミュニケーションスキル育成プログラムを実施することで、施設内のインケアにおけるコミュニケーション育成意識が職員間に定着することをめざす。また、職員同士のコミュニケーションが円滑になり、より良好な職場環境になることを目的とする。

●職員研修の概要●

1回目　自尊他尊のコミュニケーション

2回目　職員間のコミュニケーション

職員研修を体験した職員の感想



普段意識していない点に、気づくことができた。聞く耳モードが役にたった

難しいことをわかりやすい説明とワークで理解しやすかった

話し言葉の意味や伝え方について、考えさせられました

自分の問題点がわかった。これからの生活に生かしていけると思った。

自分の日頃の行動を見直す、機会となった

子どもの接し方の参考になった

自分自信を見詰め直す、良いきっかけになった。

コミュニケーションは、大切だなって、思った

いわき育英舎
社会体験ことばキャンプ

●開催日程●

１回目：2017 年 10 月 25 日 19:00-21:00

２回目：2017 年 11 月　1 日 19:00-21:00

●社会体験ことばキャンププログラムの目的●

児童擁護施設の卒園者の課題は、離就率が高いことがあります。この課題を、解決に導く為には、入所中からのインケアが必要と考えました。いろいろな立場の大人に出会い、直接的に話を聞くことで、退所後のことがイメージしやすく、深く考えるきっかけになるのではと実施しました。

●社会体験ことばキャンプの概要●

中高生 14 名が、ホールに集まり、ことばキャンプを実施しました。１回目は、ことばキャンプの基本のワークをいくつか行いました。自尊他尊について考えてもらう機会を設け、最後に、仕事人が VTR で登場し、自己紹介をしました。

２回目は、仕事人４人が登場し、ご自分のお仕事について、プレゼンテーションしました。続いて、中高生はグループに分かれ、直接的に質問し、最後に、グループ発表をしました。

●社会体験ことばキャンププログラム●

１回目

♪ 意思を決めるワーク

♪ 度胸力のワーク

♪ プレゼン力のワーク

♪ 仕事人紹介（VTR で登場し、自己紹介）

♪ 振り返りプレゼンテーション

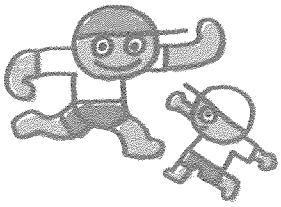
２回目

♪ 仕事人の話を聞く

♪ グループに分かれて質問

♪ グループ発表

♪ 振り返りプレゼンテーション



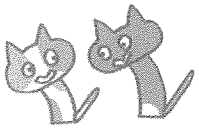
●大人たちが仕事について語る●

４人の仕事人が、熱くプレゼンテーションしました。
①公益財団法人ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の古川健さんが、水族館で生き物を扱う難しさ、好きなことを仕事にできたこと、やりがいなどを語ってくれました。
②有限会社　神谷製作所の相沢俊一さんが、今の仕事、製造業に携わるまでの道のり、生い立ちなどを語り、仕事の楽しさを伝えてくれました。
③著述業、作家の高取しづかさんが、本のおもしろさ、本を読むことによって、世界がひろがる素晴らしさなどについて語ってくれました。
④GNO 福島　再生資源卸売業の笠井俊克さんが、仕事をする上での心得、大切にしていることなどを、細かく話してくれました。
４人はプレゼンテーションの後、４つのグループに分かれた中高生のもとを、順番に回り、さらに、仕事についての素朴な疑問や、細かな質問に、丁寧に答えてくれました。

●子どもたちに変化●

最初は乗り気ではなかった子ども達が、熱く語る大人の眼差しや、真剣さにふれて、表情がどんどん変わっていったのが印象的でした。
職場や仕事内容・やりがいを説明する中で、いいことばかりではなく、逆境もあったこと、それを乗り越えながら、社会で役割を果たす意義を感じていることなどを、本音で語ってくれたことは、社会に出ることを控えている高校３年生にとって、響くものがあったようです。

「ことばキャンプ」を体験した子どもたちからの感想



相手に伝えるということはなかなか難しいものだと思います。今回改めて、大切だと思いました。仕事もまだまだ、しらないものがたくさんありました。

今日は将来どういう風にすれば良いかなどがわかりました。

将来の夢をきちんと決めようと思った。

コミュニケーションは、大切だなって、思った。

今日の話で、自分の中の迷いとか、考えすぎて分からなくなっていたことが、簡単にはっきり意識できるようになった。やりたいことをやった後の、次のやりたいことも読めてなかったし、やりたいことも、すぐに終わってしまうことが多かったから、自分の中でどんどんイメージを膨らませてたくさんのことをやっていきたい。その中にもリラックスは大事だし、苦労はして当たり前だから、自分が少し諦めたくなっても、少し頑張ってみるのもいいかなと思った。尊敬と感謝を忘れずに生活していきたい。当たり前の日々の目標も面倒くさがらずにしっかりこなしたていきたい。

４人の話を聞いて、社会でどのように生きていくのかという事がわかりました。また、様々な意見を聞く事ができてよかったです。

聞いたことがあるようで、ない話がたくさんありました。単純なテーマでも、とても深い意味が込められていました。

最近、授業で習った「稼ぐだけが目的か？」という現代文の教科書の話で聞いたものと今回４人の方の話が似ていました。その話では、一人の石工が「石を切っている」一人の石工が「家族を養うため」そしてもう一人の人が「立派な大聖堂を建てるため」と一人一人が明確な目標を持ち、それぞれが様々な価値観を持っている話でした。４人の方の話はまさにそんなお話だったので、改めて仕事に対する気持ちというのが変わりました。自分なりの価値をどう見出し、これから仕事に就くので意識したいと思いました。

前回の話を聞いて思ったことは、早くビデオの人に会いたいなとすごく思いました。いざ、今日会ってみると、とても時間が早く過ぎて、もっと話がしたいと強く思いました。自分はあまり後を考えずにお金を使ってしまうので、使う時はしっかり感謝をしたいです。最後に、ことばキャンプをやってすごく楽しかったです。

平成29年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉助成事業

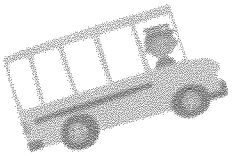
第6回 児童養護施設 ことばキャンプ研究会

～子ども達の明日のために　今できること～

2018年

2月25日(日) 13:30-17:00 （受付13:15～）

会　場　インターシティ品川　H棟会議室5　品川駅徒歩5分
参加費　無料
対　象　児童養護施設関係者



第1部　13:30-14:30

「退所後の自立支援プログラムを受けて」

いわき育英舎　市川施設長

第2部　15:00-17:00

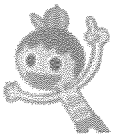
「退所するまでに育てておきたいこと」

～児童養護施設で育った経験から～

児童養護施設で育った若者の体験談とディスカッション

懇親会　17:00-19:00　会費2,000円/1名

他地域の児童養護施設職員と交流会



ご予約
お問い合わせ

ことばキャンプ児童養護施設研究会 事務局

TEL: 045-274-8327(火・金)

Chapter 3

ことばキャンプ研究会

テーマ　　：自立のための環境づくり
　　～将来の見通しをつけるために養育の中でできること～
日　時　　：２０１８年2月２５日（日）１３：３０～１６：００
場　所　　：品川インターシティー会議室
参加人数　：２１名

今回で６回目を迎える研究会。

これまでJAMネットワークは、東京都、神奈川県、千葉県他、のべ９３の児童養護施設にご訪問し、入所児童と職員の皆様にソーシャルスキルトレーニング活動を提供してきた。こうした活動を通じて、私たちが施設のお役に立てることはないだろうかと思うにいたり、ささやかな勉強会を続けている。

2017年度は、自立のための環境づくり～将来の見通しをつけるために養育の中でできること～をテーマにした研究会を行った。

東京都、神奈川県、長野県、静岡県、茨城県の施設職員が参加。初めての施設からの参加者が多かった。

第１部では、東北の児童養護施設いわき育英舎の施設長より、東北の児童養護施設の現状とことばキャンプ実践報告をいただいた。

第２部では、施設を退所後社会人として働いている３人の青年が、パネルディスカッション形式で、過去、現在、未来を語ってくれた。当事者の目線で語られた意見は、施設職員にとっては大きな学びになったのではないだろうか。

第３部で、２部のパネルディスカッションをうけて参加者が３つのグループに分かれて、個別テーマごとにディスカッションを行い、グループごと発表した。

今年度は、関東圏以外の地域からお越しいただき、初めての参加施設が多く参加した。県域、職域を超えた学びの場、交流の場となっていると、参加者の皆様よりうれしいことばもいただいた。他施設の具体的なやり方を知り、話し合いから気づいたヒントを持ち帰っていただくことで、児童養護施設の自立支援の質が向上することを願っている。また職域、地域を超えて施設職員同士が本音で語り合い連携していける場として活用していただくことを望んでいる。

ことばキャンプ研究会
第１部

退所後の自立支援プログラムを受けて

いわき育英舎　施設長　市川誠子

初めに少し３・１１の震災時の事をお話したい。震災から７年になろうとしている。あの日は、中学校の卒業式だったが３年生は式も終わり下校していた。小学校は、下校時間と重なり、怖い思いをしながら自力で下校してきた。中学１，２年生は、職員が車で迎えに行った。連絡が取れなかった高校生は、非番の職員が見つけ連れてきてくれた。

夕食は、ごはんと具だくさんにした味噌汁、さんま缶１切れだった。電気がつかず明るいうちにと早めにとった。20 時過ぎに電気がつき何が起きたのが初めてわかった。翌日に水素爆発が起こり放射能物質の問題が危機となった。隙間にはガムテープを貼り食料や水の心配をしながら１週間が経ち、施設全員で中通りへの避難ができた。

この経験から学んだことは、非常食の準備はできれば１週間分が良い。施設に留まることができる状態ならば、１週間あれば物資は届くし、避難するにも正確な状況把握ができるようになる。また、避難経路は、複数用意して置くことが良いと思う。

さて本題のプログラムだが、子どもたちに大きな変化は見られないのが正直なところである。しかし、今まで「自尊」「他尊」ということばを話し合ったことはなかったため、子どもも職員も自分と向き合うことができたことは効果があった。特に、「他尊」については、子どもたち同士のコミュニケーションの中で「相手のことを考える」ということが意識できるようになったと思う。また、「どっちにする？」ゲームから、意思決定は自分でする。職員が少し意識してことばをかけることで、子ども自身が考えるようになってきた。

また、いろいろな職種の方たちの話を伺い、子どもたちは大いに興味を持ち、「仕事を選ぶ」「仕事をする」ということの意味を考えるようになってきた。〈夢をもつ〉ことは大切なことだが、実現するための課題や努力はほとんど考えていないのが実情だった。会社を経営されている方や趣味が仕事になった方など現在に至るまでの経験等を聴きながら、子どもたちなりに多くのことを学んだ。アルバイトをしている男児が、上司が理不尽なことを言う。どうしたらいいか？と質問した。自分には受け入れられない内容であっても、『おっしゃる通りです』とまず言ってみる。と教えていただき、さっそく実践してうまくいったと喜んで報告してくれた。職員ではなく、第三者の大人に話をしていただくのは子どもたちの気持ちに入るのだと思う。

施設の子どもたちは、狭い社会での生活になる。いろいろな大人との関わりや経験を積み重ね、その経験から自分自身の人生意を選択できるようになってほしいと思う。
その一つとして、ことばキャンプはとても有意義な研修となった。

ことばキャンプ研究会
第２部

児童養護施設で育った経験から

第２部は、「退所するまでに育てておきたいこと」と題して、児童養護施設で育った若者３人から、体験談を聞きました。JAM ネットワークメンバーが聞き手となり、トークセッション方式で、お話を伺いました。

施設のここがよかった！

夏祭り、ソフトボール、野球大会が盛り上がった。
建物も綺麗で、大きなホールがあり、部屋は、家具もチョイスして、モデルルームのようにおしゃれできれいだった。

別荘に行く林間行事。夏にみんなで海に入った。クリスマス、祝日、など、会を開くのがよかった！

夏の行事がアクティブでした。６年生のキャンプ。夏の富士登山。電車で江ノ島まで行って、江ノ島から施設まで歩く、７０Km 競歩は、辛かったけど楽しかった。

職員の自慢

アルバイトのお金を、貯金に回すように言われ、取りたてられた。卒園する時、たまっていて、とても役に立った。

高校受験の時、進学について、相談にのってくれた。

職員が優しい。高校２年の時、朝、起きることができなくて、午後登校し、単位が足りなくなった。なぜ、こういう風になってしまったと、自分の為に泣いてくれた。

不安だったこと

入所する時、不安だった。

小学校の時、不安定な時期だった。

小学校の時、泣いてばかり。不安ばかり。

集団生活でよかったところ

時間のルールを学べた。アラームをかけなくても、起きることができるようになった。下の子に、料理を教えたり、料理を手伝だったりがよかった。

相手のことを考えて生活することを学べる。帰ると誰かしらいる安心感があった。自分の年齢があがり、下の子が迷惑をかけるようなことをすると、止めようという気持ちが働く。血は繋がってないけれど、兄弟みたいな感じ。

一人っ子なので、年下、年上の子がいたのが、良かった。

卒園する時期が近づき、社会に出ることを、どう捉えたか？

不安いっぱい。不安しかない。一人暮らしも不安、就職が施設から遠いし、身寄りもいないので一人頑張らなきゃと思った。

飲食店でバイト。バイト先が楽しく、社会に出るのは怖くなかった。やりたいことはあったが、大学に行かなきゃならないと思うと、勉強したくないかなということと、奨学金を借りなきゃいけないとなると、一人で生きていかなきゃいけないので、どうかなと。施設にいる時から、頼らなかった。なので、一人暮らし、社会に出ることに、不安はなかった。

不安しかなかった、就職が決まっていたが、出たくない。１０年いたし。最後は、号泣。

車の免許

貯金をしっかりすること。

卒園に向けて、準備していたこと、勉強しておいたほうがよいこと

学校に行った場合に、取れる免許、資格は取っておいた方がいい

人間関係の構築

ことばキャンプの聞く耳モード、今でも、残っている。

コミュニケーション能力は、毎日、いろんな人とふれあう中で、勝手に身についた。
施設を出てから、頼れるようにしておく、
頼れる人を作っておくことが大事。

いろんな人を見るのが大事。
職員の方から、人間味を感じ、学んだ。
こういう大人になるといいなと思った。

福祉の職員もやってもいいかなあと、思っている。
やりたいことを抱えている子どもたちがいる。
やりたいことは、チャレンジした方がいい。

最後にメッセージ

新しく職員になる方に、仕事がないからと、施設で働いてほしくない。人と関わること。子ども達はいろいろなことを抱えている。赤の他人だけど、一人一人の人間として接する職員でいてほしい。適当な感覚で接してほしくないです。

施設に来る子は、事情を抱えて来ている。職員は、仕事でやっているという思いがあって、自分のことなんか、見てくれないんじゃないかと思っている。一人一人の話を聞いて、一人一人と向き合う時間を、しっかり作ってほしい。

ことばキャンプ研究会
第２部

グループディスカッション

若者の体験談を聞きながら、グループディスカッションで、話し合いたいテーマを書き出してもらい、３つのテーマに分類し、提示した。その後、テーマごとに参加者が３つのグループに分かれ、ディスカッションを行った。最後は、グループで話し合った内容や提言を、グループの代表が全体に発表した。

１、アフターケア、卒園した子どもについて

○　卒園生とどう繋がっていくか？

・外部団体との連携が大切、外部団体と、どんどん繋がり、どんどんきてもらい、児童と顔合わせをして、関係性を作って行くことが大事

・毎年行っている行事、お祭りとかに、合わせ技で、午前中に、卒園者が集まる機会を作る。

・若い職員が増えている為、卒園者の受け入れの時に、OB の職員をよび、その会に新人職員もよび、顔つなぎをしてもらう。

・児童が人と繋がるのではなく、施設と繋がることを意識する。

※自立支援コーディネーターを全国につけてほしい。ある所、ない所があるが、いた方がいいですという声が多い。コーディネーターをつけていくことが大事。

２、子どもと職員の信頼関係を、どう築いていけるか？。

○　信頼関係を築くには特別なことが必要か？

・特別なことを何かやるより、毎日を丁寧に、生活していく中で、信頼関係が生まれる。

・きちんと子どもの話を聞く、支援する

・職員に、余裕がないとできない？大切なのは、職員のメンタルケアをきちんとする

・職員自身も自分の発言にきちんと責任をもって、子どもと関わっていくことが大切。

※職員同士で、情報交換をし、引き継ぎをきちんとして、職員も心に余裕をもって、子どもたちに関わっていくことが大切。それが、こどもに、プラスになるのではないか。

３、リーディングケア、自立に向けた対応について

○　施設生活の中で、自立の生活のイメージを、具体的にどうもってもらうのがいいか？

・職員宿舎を利用して、一人暮らし体験をしてもらい、生活にかかるお金について考える。

・発達段階に応じて伝えいくこと、子どもの特徴をとらえ、職員が理解することで、出来ること出来ないことを、整理させながら、伝えることができる。

・JOB キャンプ活用、生活の中でも、働く人々の姿をみせて、伝えることが大事。

・役所の手続きや病院の受診料についてなど、知っておくこと。

・新人職員から、意見を聞くことで、改めて生活に必要なことは何か、知ることができる。

※普段の生活を大事にする、丁寧に伝えて行くことが、リーディングケアにつながる。

ＪＡＭネットワークとは

ＪＡＭネットワークは、Ｊapanese ＆ American Mothers の頭文字をとったもの

●活動を始めた動機●

アメリカのオーラルコミュニケーション教育を目の当たりにして、日本の子どもたちに届けたい！！」2003 年、コミュニケーションスキル育成を使命としたＮＰＯ活動をスタート。

●これまでの活動実績●

子ども対象

・お茶の水女子大学附属小学校
・横浜市戸塚ルーテル教会附属幼稚園
・教育委員会西成青少年会館
・神奈川県葉山長柄小学校・・・ほか

保護者対象

・藤沢市辻堂第 2 回子育てフォーラム
・東京都羽村市立 小・中学校 PTA 連合会
・小金井市立南小学校みなみの会
・浦安市美浜公民館・・・ほか

教育関係者・指導者対象

・幼稚園指導者向けの 1 日セミナー
・広島県芸北町立美和小学校講演会・・・ほか

度胸力
恐れずに言うチカラ
言いたいことを勇気を出して伝えることが出来るように、話す機会をつくり、場数を踏みましょう。

語彙力
言葉を知るチカラ
読書やことば遊びを通して、たくさんのことばに興味を持ちましょう。

論理力
話を組み立てるチカラ
ひと言ことばはやめて、主語と述語の入ったセリフで筋道を立てて話しましょう。

説得力
理解してもらうチカラ
言いたいことを順番に並べたり、事実と気持ちを分けたり、相手に伝える工夫をしましょう。

理解力
話を理解するチカラ
ただ音として聞き流すのではなく、理解しようとして聞く習慣をつけましょう。

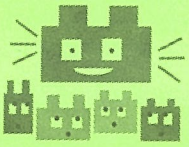
プレゼン力
アピールするチカラ
声や顔の表情、小道具での演出など、言葉以外で表現する方法を知りましょう。

応答力
受け答えするチカラ
あいさつを返したり、相づちを打ったり、人の話に応える心がけをしましょう。

「ことばキャンプ」とは、
聞くチカラ・話すチカラの基礎となる「7つのチカラ」を
身に付けるためのトレーニングプログラムです

度胸力

ドキドキしないで
人前で話せる



恐れずに言うチカラ

ことばキャンプとは、
聞くチカラ・話すチカラの基礎となる
「７つのチカラ」を身に付けるための
トレーニングプログラムです。

日常生活でも実践することでコミュニケーション能力を育て、子どもの自立を促します。

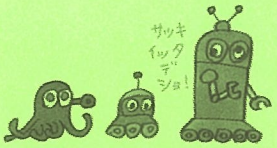
論理力

子どもの「どうして？」に
きちんと答えている

話を組み立てるチカラ

理解力

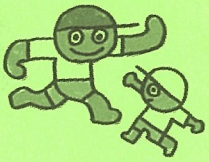
親に「さっき言った
でしょ！」と言われない



話を理解するチカラ

応答力

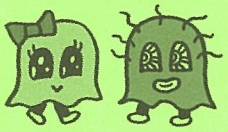
「おはよう！」
「こんにちは！」が言える



受け答えするチカラ

語彙力

「カワイイ」や「キモイ」
を別のことばで言いかえ
ることができる



ことばを知るチカラ

説得力

「思ったこと」と「見たこと」
を分けて言うことができる

理解してもらうチカラ

プレゼン力

笑顔が得意だ

アピールするチカラ

特定非営利活動法人　ＪＡＭネットワーク

〒231-0002 横浜市中区海岸通４丁目 21-702
http://kotobacamp.com/